



Information Technology (IT) と大学

法学部教授 加賀美 鐵雄

(1) 情報技術 (IT) 革命と超高度情報化社会

2000年4月24日の朝日新聞紙上においてソニー社長の出井伸之氏が現在進行しているIT革命について、いくつかの示唆に富んだ見解を述べている。例えば、IT革命によって社会環境がどのように変わるかについて、「企業と個人の情報格差がほとんどなくなる」、「インターネット社会は、参入障壁が低い。創意工夫さえあればだれでも事業が起こせる」、「意志決定のスピードと、身軽な組織によるコストカットが勝負を分ける」、「ピラミッド型の中央集権から分散型の都市国家に移っていく」、「良いことばかりではない。デジタル・デバイスと呼ばれる情報



を使いこなす能力の差が、人々の間に深刻な格差を生む」などと指摘している。また、IT革命の今後の展開については、「ITはドッグイヤー（犬の年齢）といって、1年が7年分のスピードで進んでいると、言われている」、「MITの研究では、コンピュータのCPU（中央処理装置）が簡単に作れて、空気のように、どこにでもある状況が想定されている。大容量通信が重なると、どんな世界になるやら、誰も分からない。文字と音と映像が瞬時に送れるぐらいはわかるけど、それで社会や教育や政府がどうなっていくのか」と

述べ、そのスピードの速さが想像を困難にしていることを指摘している。とはいえ、近い将来はいまにもまして情報化が進み、超高度情報化社会が到来することは目に見えている。

(2) e-commerceとe-education

IT革命は、企業に新しい競争原理をもたらした。その最も顕著な例が、企業におけるインターネットの利用であろう。企業が独自に立ち上げているHP（ホームページ）が自

社広告に果たした役割は計り知れない。また、インターネット技術の応用としてのイントラネット（企業内のインターネット化）やエクストラネット（企業間のインターネット化）は、企業内および企業間の業務処理

形態を変えることによって、「意志決定のスピードと、身軽な組織によるコストカットが勝負を分ける」ことに貢献してきている。さらに、最近の電子商取引、いわゆるe-commerceは、従来の企業形態を根底から覆すような変化をもたらし、企業のスリム化や通商の効率化に劇的な影響を与えようとしている。いうまでもなく、企業活動は収益を争う活動であるから、e-commerceは言うに及ばずあらゆるITを駆使して競争を行うことは当然で、その意味では、企業におけるITの利用が実質的な進歩を遂げているのも、頷ける

ことである。

これに反して、大学の電子化、つまりe-educationはどうであろうか。インターネットの利用に限っていえば、大学は企業より早くから使っていたと思われるが、現段階で比較すれば企業に圧倒的に水をあけられている。ヴァーチャル・ユニヴァーシティ（インターネット上に構築された大学）とかディスタンス・ラーニング（インターネットなどを用いた遠隔授業）とか喧伝されているわりに、実体が伴っていないのが現状である。

(3) 大学のIT化

大学は世の中の変化に対応し、IT知識を持つ学生を世に送り出す役割は当然果たさなければならない。だが現在それ以上に必要なことは、大学自体がその変化に対応することである。先に述べた出井氏の見解を基に言い換えれば、「大学と学生の情報格差はほとんどなくなる」、「学生はインターネット社会にいつでも参入できる」、「大学は都会にある必要はない」、「教職員もITを使いこなす能力をもたなければならない」ということになる。しかし、このようなことが実現するためには、大学の知的資源（教員の授業内容や教材も含めて）が電子的に蓄積されており、学生からのアクセスが可能でなければならない。このような状況を先取りするために、各大学は自前の知的資源の電子的蓄積とその電子的配布に真剣に取り組み始めている。翻っ

て中央大学をみると、実はこの知的資源の電子化が圧倒的に遅れているのである。

(4) 中央大学の21世紀に向けて

将来も板書と書籍と対面授業という伝統的な授業形態が完全になくならないとは思わない。しかし、IT革命が進行する中で、大学独自のコンテンツ（電子化された知的資源）とそれを電子的に配布するためのインフラストラクチャーとが大学の価値や評価を決めることになることは明らかである。中央大学はまずコンテンツの充実に早急に取り組まなければならない。このことは対面授業の質的向上にも資するのである。何故なら、今では通常授業においてもITが重要な道具になっているからである。さらにいえば、コンテンツが一定の水準に達しなければ、ヴァーチャル・ユニヴァーシティもディスタンス・ラーニングも絵に描いた餅である。同時に、中央大学内のITインフラ（授業のための設備、事務システム、校地内および校地間の通信など）のさらなる充実、インターネットに接続するための回線容量のさらなる拡充、移動体通信や衛星通信を始めとする新しいITの導入などにも心を配っておかななければならない。

21世紀初頭には、中央大学が少なくともコンテンツの面で私立大学のトップ・レベルに位置していようではないか。そのために、我々教職員は意識改革を進めるが、学员ならびに御父兄の叡知も拝借したいと思っている。

